

令和3年1月25日

報道機関 各位

富山大学学術研究部医学系皮膚科学講座  
清水忠道 教授 が  
『第11回日本光医学・光生物学会学会賞』を受賞

令和3年1月22-23日、第42回日本光医学・光生物学会（東京都）において、国立大学法人富山大学学術研究部医学系皮膚科学講座 教授 清水忠道（しみず・ただみち）が、『第11回日本光医学・光生物学会学会賞』を受賞（オンライン）しました。

日本光医学・光生物学会は、医学・生物学および関連諸科学領域において、光に関連する研究を推進し、その研究成果を社会に向けて普及することを目的とした学会であり、学会賞は同分野で顕著な業績をあげた会員が選出・授与される賞です。

このことについて、以下のとおりに報道発表致します。つきましては、下記に基づき取材・報道方よろしくお取り計らい願います。

記

1. 発表内容  
別紙のとおり。
2. 研究に関する取材・問い合わせ先  
富山大学学術研究部医学系皮膚科学  
教授 清水忠道  
TEL：076-434-7305

別紙資料

## 光医学の研究に従事して —米国留学中の恩師を思い出して—

清水忠道

富山大学学術研究部医学系 皮膚科学

私はこの1月に第42回光医学・光生物学学会において学会賞を拝受します。(本来2020年5月の受賞でしたが、新型コロナウイルスの影響で学会が延期になりました。)この学会は医学・生物学および関連諸科学領域の光に関連する研究を推進し、その研究成果を社会に向けて普及することを目的とした学会であり、学会賞は本分野で顕著な業績をあげた会員が選出・授与される賞です。思えば私の光医学の研究は1991年米国マイアミでの研究に始まります。留学時の恩師であり、私の光医学研究の礎を築いてくれたジェイウェイン・ストレイライン教授(1935-2004)について振り返ってみたいと思います。

同教授は1970年代に皮膚が重要な免疫を司る臓器であると初めて提唱し、紫外線が皮膚免疫に及ぼす影響に関し多くの業績を残しています。先生は元々移植免疫の研究から始められ、その後皮膚および眼の免疫分野の仕事を精力的に進められました。皮膚がきわめて重要な免疫臓器であることを提唱されたことは、皮膚科学において大変有名な研究成果です。

私は当時の北大皮膚科主任教授の大河原章教授ご推薦のもと1991年から2年間ストレイライン先生が主任のマイアミ大学免疫学教室に留学する機会を得、紫外線免疫について研究を行いました。総括すると紫外線誘導トランスと紫外線による局所性免疫抑制の違いについてマウスを用いて検討し、局所の免疫抑制にはTNF- $\alpha$ が関連し、紫外線誘導トランスとは別の機序で起こることを解明しました。さらに、紫外線感受性フェノタイプの検討を行い、健常人には紫外線に感受性がある群とない群の2タイプあり、皮膚がん患者の大多数は紫外線に感受性がある群であることを突き止め、紫外線感受性が皮膚がん発症のリスクファクターであることを報告しました。帰国後には同時期に同研究室に留学した研究者らと共に、ヒトの紫外線感受性遺伝子の同定を試み、TNF 遺伝子とその関連遺伝子が紫外線感受性に重要であることを見出しました。

そして1996年に札幌で開催された第95回日本皮膚科学会総会学術大会に招待した際には、先生に特別講演をお願いしました(図1)。学会中の多忙な折にも、先生は結婚記念日を奥様とお二人で祝いたいと食事を計画されました。異国の地での思いがけないアニバーサリーを奥様が喜ばれたことは言うまでもありません。ジョアン夫人もまた免疫学者であり、マイアミ大学にて肺に関する免疫の仕事をされていました。また、当時妊婦だった私の妻も交えてのジンギスカンもいい思い出です(図2)。今でも「ミチ」と呼ぶ声が聞こえるようです。日本人の英語を辛抱強く聞く姿勢も思い出されます。その後現在まで続く光医学の研究に導いてくださいました先生には感謝の念に堪えません。